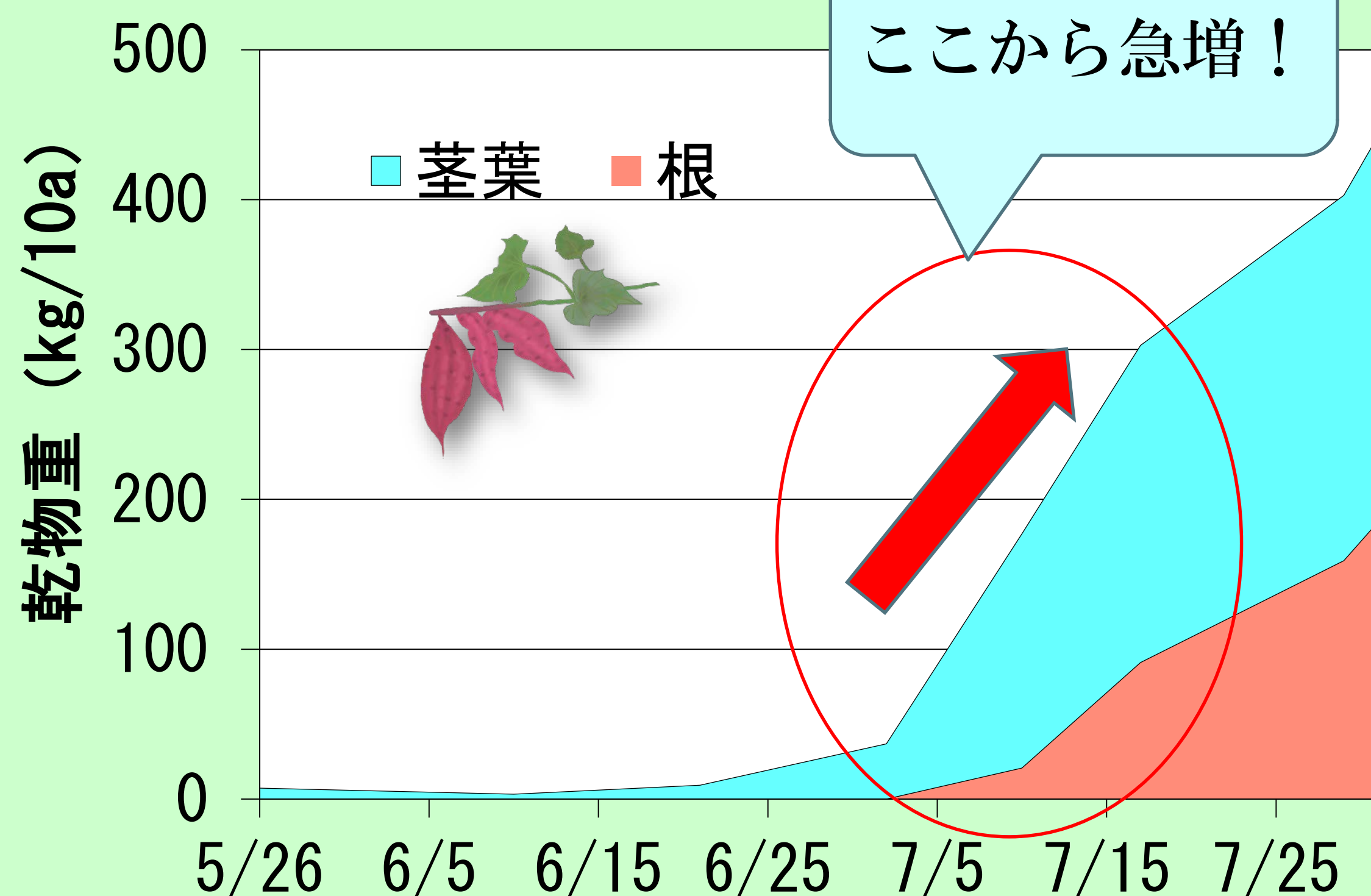


緩効性肥料を上手に使ってさつまいもを作ろう

概要 Abstract



●さつまいもは定植後1ヶ月程度はほとんど生長せず、その後急激に生長する。

↓
生長時期に合わせて窒素 & カリ肥料を効かせられれば効率的

●さつまいものカリ施肥は。

これまでは根部のカリ吸収量から推定

マルチしてるから分
施できない(～～)

緩効性肥料の利用が
有効

施肥量との比較で
カリ施肥量を確定

成果 Results

1. 緩効性肥料を使った窒素施肥法

●供試肥料: 硫安(対照)

緩効性窒素肥料(40%配合) ①リニア型40日タイプ(被覆硝安、以下L40)
②シグモイド型40日タイプ(被覆尿素、以下L40S)
③リニア型70日タイプ(被覆硝安、以下L70)

表 施肥窒素の違いが上いも収量および窒素吸収量の及ぼす影響(平成26～28年平均)

窒素肥料の種類	上いも収量 (比率)	窒素吸収量 (比率)
緩効性肥料 L40	(113)	(113)
緩効性肥料 L40S	(107)	(108)
緩効性肥料 L70	(104)	(105)
硫安(対照)	2.16～3.25t/10a	12.9～16.3kg/10a

窒素肥料の40%にリニア型40日タイプの緩効性肥料を使うと収量・窒素吸収量の増大に効果的

2. カリ施肥法の検討

●供試肥料: 硫酸カリ(速効性)(施肥量4水準)7.5、15(対照)、18、30kg/10a
ケイ酸カリ(緩効性)15kg/10a

表 カリ肥料の種類、量が上いも収量、カリ吸収量、平均1いも重に及ぼす影響(平成26～28年平均)

カリ肥料の種類	施肥量 (kg/10a)	上いも収量 (比率)	根部カリ吸収量 (比率)	平均1いも重 (比率)
硫酸カリ	7.5	(97)	(92)	(98)
硫酸カリ	15(対照)	2.48～3.25t/10a	14.4～17.3kg/10a	331～337g
硫酸カリ	18	(97)	(99)	(95)
硫酸カリ	30	(91)	(98)	(85)
ケイ酸カリ	15	(107)	(105)	(110)

カリの多施肥は平均1いも重の減少(小いも化)を招く

●カリの施肥量は?(施肥量比較試験)

- ・上いも収量は15kg/10a施肥で最も多かった。
- ・収穫物として持ち出される根部のカリ吸収量は15kg/10a施肥で最も多く、14.4～17.3kg/10aであった。
- ・カリ施肥量は現在の施肥標準量15kg/10aが妥当であると判断された。

●緩効性カリ肥料であるケイ酸カリの利用は収量と平均1いも重の増加に有効であった

普及 Dissemination

●さつまいも栽培の肥料を選ぶ時の参考として使ってください。



連絡先 Contact

花・野菜技術センター
研究部生産環境グループ
0125-28-2800
hanayasai-agri@hro.or.jp